元の式(前進差分近似)

$$\frac{F(U+h\dot{U},x+h\dot{x},t+h)-F(U,x,t)}{h}=-\zeta F(U,x,t)$$

 $F(U,x+h\dot{x},t+h)$ の項を追加すると,

$$\frac{F(U+h\dot{U},x+h\dot{x},t+h)-F(U,x+h\dot{x},t+h)}{h}+\frac{F(U,x+h\dot{x},t+h)-F(U,x,t)}{h}=-\zeta F(U,x,t)$$

求めるべき式

$$\frac{F(U(t) + h\dot{U}(t), x(t) + h\dot{x}(t), t + h) - F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t + h)}{h}$$

$$= -\zeta F(U(t), x(t), t) - \frac{F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t + h) - F(U(t), x(t), t)}{h}$$

計算ステップとしては,

- 1. $U(0) = U_0, x(0) = x_0$ を定義 or 測定
- 2. F(U(t),x(t),t) = F(U(0),x(0),0)を計算
- 3. $\dot{x} = f(U(t), x(t), t) \approx Ax(t) + Bu(t)$ (\leftarrow 線形の場合)を計算
- 4. $x(t+h) = x(t) + h\dot{x}(t)$ を計算
- 5. $F(U(t),x(t)+h\dot{x}(t),t+h)$ を計算 このとき、Fはハミルトン函数の入力微分dH/dUそのものである(制約もひと纏めにした場合).

たとえばセミアクティブダンパの場合, 現時刻でのF(U(t),x(t),t)は,

$$F(U(t), x(t), t) = \frac{dH(U(t), x(t), t)}{dU}$$

$$= \begin{pmatrix} r_1 u_1(t) - (u_{Max} - 2u_1(t))u_3(t) + b\lambda_2(t)x_2(t) \\ 2u_2(t)u_3(t) - r_2 \\ u_2(t)^2 + \left(\frac{u_{Max}}{2} - u_1(t)\right)^2 - \frac{u_{Max}^2}{4} \end{pmatrix}$$

となる.

 $F(U(t),x(t)+h\dot{x}(t),t+h)$ は、 $x(t+h)\approx x(t)+h\dot{x}(t)$ とすると、 $(\lambda_2(t+h))$ はdH/dxから出す)

$$F(U,x+h\dot{x},t+h) = \begin{pmatrix} r_1u_1(t) - (u_{Max} - 2u_1(t))u_3(t) + b\lambda_2(t+h)x_2(t+h) \\ 2u_2(t)u_3(t) - r_2 \\ u_2(t)^2 + \left(\frac{u_{Max}}{2} - u_1(t)\right)^2 - \frac{u_{Max}^2}{4} \end{pmatrix}$$

となる. ここで、**Fにtは明示的に含まれてはいないため、無視できると考えている**. † **(この部分は要検証です)**.

†2 行目が、 $2u_2(t)u_3(t)-r_2+e^{-pt}$ だったりすると、 $2u_2(t)u_3(t)-r_2+e^{-p(t+h)}$ になるのかなあ.

6. 右辺が求まったので、左辺の \dot{U} について解く.

$$\frac{\partial F(U, x, t)}{\partial U} v_k \approx \frac{F(U + hv_k, x, t) - F(U, x, t)}{h}$$

の関係から,

$$\frac{\partial F(U(t),x(t)+h\dot{x}(t),t+h)}{\partial U}\dot{U}(t) = \frac{F\big(U(t)+h\dot{U}(t),x(t)+h\dot{x}(t),t+h\big)-F(U(t),x(t)+h\dot{x}(t),t+h)}{h}$$

となり、Ax = bと等価であるので、GMRES 法で解ける.

7. 結局、求めるべき関係は、以下の通り得られる.

$$\frac{\partial F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t+h)}{\partial U}\dot{U}(t) = -\zeta F(U(t), x(t), t) - \frac{F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t+h) - F(U(t), x(t), t)}{h}$$

これを GMRES により最小化する. つまり, 以下を解く.

$$\min_{\dot{U}(t)} \left\| -\frac{\partial F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t+h)}{\partial U} \dot{U}(t) - \zeta F(U(t), x(t), t) - \frac{F(U(t), x(t) + h\dot{x}(t), t+h) - F(U(t), x(t), t)}{h} \right\|$$

反復について

1回目(t=0)

- 1. まず, 現在の入力ベクトル $U(0) = U_0$, 入力の微分ベクトル $\dot{U}(0) = \dot{U}_0 \in \mathbb{R}$, 状態ベクトル $x(0) = x_0$ を取得する. \dot{U}_0 はどんな値でもよいが, $\dot{U}_0 = U_0$ を使用している.
- 2. 状態ベクトルの微分値 $\dot{x}(0) = f(U(0), x(0), t)$ を計算する.
- 3. 次に、初期残差 $r_0(0)$ を求める. †

$$r_{0}(0) = -\zeta F(U(0), x(0), 0) - \frac{F(U(0), x(0) + h\dot{x}(0), h) - F(U(0), x(0), 0)}{h} - \frac{\partial F(U(0), x(0) + h\dot{x}(0), h)}{\partial U} \dot{U}(0)$$

$$= -\zeta F(U(0), x(0), 0) - \frac{F(U(0), x(0) + h\dot{x}(0), h) - F(U(0), x(0), 0)}{h}$$

$$- \frac{F(U(0) + h\dot{U}(0), x(0) + h\dot{x}(0), h) - F(U(0), x(0) + h\dot{x}(0), h)}{h}$$

†この時与える $\dot{U}(0)$ は、おそらく**どんな値でも良い**. 毎イテレーションで rand(size($\dot{U}(t)$))でも動きます. ただ、前回値 $\dot{U}(t-h)$ を使うと収束が速い. はず. このため、現在時刻の $\dot{U}(t)$ は必要でない.

- 4. 操作量MV(0) = U(0)としてシステムに入力する.
- 5. 次のサンプリングでの入力ベクトル $U(h) = U(0) + h\dot{U}(0)$ を求める.

2回目以降

省略